

在ペナン日本国総領事・町田です。

新年のお屠蘇気分も早々と終わり、1月もご多忙のことではなかったかと拝察申し上げます。通例通り、本年1月の総領事（館）活動報告をさせていただきたいと存じます。なお、これら活動の一部については別途総領事X等でも紹介しておりますので、併せ御笑覧ください。

ペナン外への出張等については、

1月14日から16日、トレングヌ州に初めての出張を行ないました（州都クララ・トレングヌにはペナン発の直行便がないため、KL経由で2泊の旅となりました）。トレングヌでは、州立博物館で開催された国際交流基金巡回展「寿司を愛でる」開会式（15日）に出席し、また、サムスリ州首席大臣に表敬（同日）を行ないました（また、トレングヌの日本人墓地に詣でました）。「寿司を愛でる」展は、流石に「プロの仕事」と感じられる素晴らしい展示でした。トレングヌは漁業が盛んな州であり魚には馴染みがあるので、寿司の展示は開会式に招かれた学校の生徒を含めて大変人気でした。開会式での挨拶では、なれ鮨から発展していた日本の寿司は、なれ鮨と同様の食べ物を有する東南アジアとの文化上の共通点を思わせ



るものであること等に触れました。サムスリ首席大臣への表敬では、小規模といえども日本企業、在留邦人がトレングヌ州で操業、在留し、「良き市民」として振る舞っていることを説明し、日本・トレングヌ間でのありうべき協力の可能性等について意見交換しました。日本企業で働いた経験もあり、有能なテクノクラートであるとされる同首席大臣とは今後とも折に触れて我が国政策の広報などをていきたいと存じます。

ところで、トレングヌ州州立博物館では、「バトウ・ベルスラット（Batu Bersurat／トレングヌ碑文）」を拝見しました。これは、古マレー語のジャウィ（アラビア文字

系)で刻まれた花崗岩の石碑で、マレー世界におけるジャウイ最古級の証拠かつ地域でのイスラム化を示す重要史料(14世紀作成と推定)です。1887年に発見されたこの碑文は1923年に日本人写真師(!)によって撮影された写真が英国オックスフォード大に送付され研究がなされた結果、イスラム法や宗教的規範、王権によるイスラム公認を示す文言を含むもので、この地域でのイスラム化とジャウイ文字の早期使用を示すものと判明。2009年には、ユネスコ「世界の記憶(Memory of the World)」に登録されたものです。この碑文は長くシンガポールに預けられていきましたが、トレンガヌ州に適切な博物館が設置された後に同州に戻すという取り決めがなされていたということです。



クアラ・トレンガヌの日本人墓地は小規模なものではありましたが、綺麗に清掃がなされていました。トレンガヌの地で生き、ここにて生を終えられた日本人の皆様に思いを馳せつつ、お花を供えさせていただきました。

25日、ペラ州イポー市に出張し、イポー日本人会年次総会及び懇親会に出席しました。イポーは2024年12月の総領事としての勤務開始以来、月に1回以上は訪問して各種行事に出席しています。イポー日本人会の懇親会は小規模ですが、ご家族を交えての大変楽しい行事です。懇親会での挨拶では、私から、タイピン等の移葬分を含む大規模な日本人墓地の維持管理及びペラ日本人補習授業校の運営という二つの重要事業を実施されていることに敬意と感謝の意を表明させていただきました。



この他、当館各担当官も、必要な用務出張を行なっております。

私共としては、管轄の北部6州の関係者・関係機関を幅広く訪問して人脈を形成し、当地事情をより深く詳細に理解していきたいと考えております。

政治・行政・経済面では、

1月7日、CCPSS (Crime Consciousness & Public Safety Society) の「Media Appreciation Night」に出席しました。CCPSSは、ペナン州を中心に、地域社会の安全向上や防犯意識を高める活動を行なう団体であり、警察OBなどを主要メンバーとして、政府機関とも協力し、詐欺対策の講演や防犯活動を通じてコミュニティの福祉と安全強化に貢献しています。当館は、警備対策官と共に、CCPSSとは良好な関係を維持しており、今後、在留邦人の皆様の安心・安全に関する情報が入手できればいいと思っています。



12日、市内ホテルで開催された「ペナン港湾委員会」の70周年祝賀行事に出席しました。同委員会は、ペナン港の運営を担う国家機関であり、ペナン港会社の上部に位置する規制機関です。ペナン港は、ペナンや北部マレーシアの物流や観光のハブであるだけでなく、マレーシア経済全体にも極めて重要な港です。日本企業の操業とも関係が深いペナン港湾委員会及びペナン港会社とは今後とも関係を維持・深化させます。



しました。同委員会は、ペナン港の運営を担う国家機関であり、ペナン港会社の上部に位置する規制機関です。ペナン港は、ペナンや北部マレーシアの物流や観光のハブであるだけでなく、マレーシア経済全体にも極めて重要な港です。日本企業の操業とも関係が深いペナン港湾委員会及びペナン港会社とは今後とも関係を維持・深化させます。

14日、「Malaysia Entrepreneurs' Development Association」(PUMM) ペナン支部関係者の来訪を頂きました。PUMMは製造業、サービス業を問わず、マレーシアの零細中小企業の支援を行なっている非営利団体です。今後、日本の中小企業の当地進出を検討する際の側面支援をお願いできるかもしれない団体ですので、今後、関係を維持していきたいと思っています。

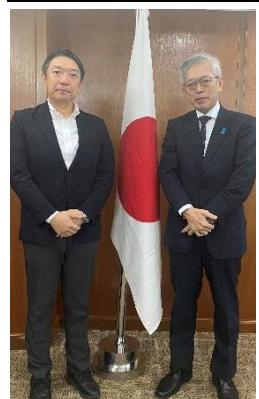


19日、広島ASEAN協会のマレーシア・シンガポール訪問団の皆様と夕食を共にし、意見交換することができました。広島の有力企業、メディア関係者、市議会の皆様による大規模な訪問団であり、当方からペナンを含む北部6州の事情、日本・北部6州関係、総領



事館の活動等にご説明して、様々なご質問に答えることができました。マレーシアには、マツダやオタフクといった日本企業もあり、総合物流会社であるPKTロジスティクス社などマツダ等と関係の深いマレーシア企業もあります。今後、広島との関係も密になればと思っています。20日、PKTロジスティック社のマイケル・ティオ会長兼社長を夕食にお招きして、マレーシア政治経済事情等について有益な意見交換をすることができました。

21日、ペナン州議会のガイ・シャオ・ルーン議員を表敬し、マレーシア政治経済事情について意見交換しました。また、今月は、当地学識経験者数名と意見交換し、やはり、当地政治経済事情について意見交換しました。28日、日本貿易保険（NE XI）アジア／オセアニア地域総代表兼シンガポール支店長の齊藤賢介様が来訪されました。当方から、ペナン等北部6州の状況、日本と北部6州の関係についてご説明し、また、今後のマレーシア経済の見込み等について意見交換しました。制度上の制約はあるものの、今後、マレーシアでの業務も検討される可能性があるということなので、今後再訪される場合には、日本・マレーシア企業の方々とのネットワーキングなどを試みたいと考えます。同日、在ペナン・メキシコ名誉領事の任命記念

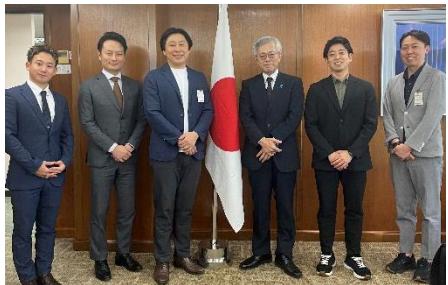


式典に出席しました。駐マレーシア・メキシコ大使及びチョウ・コン・ヨウ首席大臣臨席の下で任命されたのは、ペナン港湾委員会CEOのダト・ヨウ・スーン・ヒン氏（ツアリズム・マレーシア副会長）でした。全方位的に関係を展開するペナンらしい大物の任命でした。

23日、UTM (Universiti Teknologi Malaysia : マレーシア工科大学) 内に設置されているMJIT (Malaysia-Japan International Institute of Technology : マレーシア日本国際工科大学院) 関係者の来訪を頂きました。MJITはペナン州の管轄地域でも活動を行なっており、また、一部日本企業とも共同で事業を行なっていると伺いました。東方政策の象徴の一つと言えるMJITとの関係は、日本・マレーシア／ペナン関係が今までになく成熟している中で今までにまして重要ななると思われます。



29日、八千代エンジニアリング社関係者の皆様に訪問していただきました。同社は、ペナンの水資源管理問題について長く取り組んでこられましたが、将来は、ODAの枠組みを超えてそれ以外の分野でもマレーシア／ペナンへの進出を検討しておられるということです。将来は、当地日本企業とのネットワーキングなども支援していきたいと思っております。



30日、MATTA (Malaysian Association of Tour and Travel Agents) ペナン支部ネットワーキング・ディナー&フェローシップ・ナイト (ウォン観光・創造経済担当EXCO等出席) に出席しました (2年連続)。MATTA (1975年設立) のマレーシア国内旅行業界の代表団体で会員数は約3,000



社、本部はクアラルンプールにあります。ペナン支部も充分に強力で、今回は当地領事団からも多数が招待されておりました。今回は、鳥取県庁からも観光振興ご担当の方が来訪されておりました。オーバーツアリズムを予防しつつ、日本観光が振興できればと思います。

31日、PWCC (Penang Waterfront Convention Centre) で開催された MEP Enviro Technology 社の20周年記念行事 (チョウ・コン・ヨウ首席大臣等出席) に招待されて出席しました。

MEP社は、2005年設立のマレーシア・ペナン拠点の廃棄物回収・リサイクル事業者で、電子廃棄物 (E-waste) やプラスチック、鉄・非鉄金属など



の回収・再資源化

を主業務としています。今回の記念行事では、同社と合弁を組む田中貴金属工業とのMOU調印もありました。ペナンにおける循環型産業の一つとして注目されているものと思います。成熟した日本・マレーシア (ペナン) 関係の一つとして注目していきたいと思います。

今後とも、当地行政機関等との関係を深め、また、様々な人や組織を繋げることによって、当地の日本人・日本企業の皆様の活動へのヒントが得られればと思っています。

日本人社会との関係（出張部分除く）では、

1月9日、当地E&Oホテルにおいて令和8年新年賀詞交換会を開催しました。総領事館管轄地域の在留邦人の皆様約100名の方々にご出席いただき、松本ペナン日本人会長及びタンスリ小西様からご挨拶と乾杯の音頭をいただきました。私の挨拶では、1年間の当地勤務に対する皆様からの御厚情に感謝申し上げ、マレーシア／北部6州との成熟した関係に思いを馳せ、また、ソフト・パワーの維持強化や我が国の政策広報に尽力する決意をお話いたしました。在留邦人の皆様のご多幸とご発展を祈念申し上げます。



27日、ペナン日本人理事会が開催され、当館館員が出席しました。日本人会の魅力向上についての取り組みなどに、総領事館も力一杯側面協力していきたいと存じます。28日から2月1日の間、総領事館図書室において在外選挙を実施しました。2月8日に実施される衆議院選挙において皆様の御意志が反映されるためのお手伝いをさせていただきました。

29日、JACTIMペナン・ペラ部会&ペナン三水会合同例会及び懇親会に出席いたしました。例会では、タンスリ小西のご講演などを拝聴し、また、懇親会でご挨拶いたしました。在ペナン総領事館はほぼ50周年になりますが、「成熟」した日本／マレーシア関係の中で今後とも日本人の皆様・日本企業の皆様にどのように貢献していくかについて今後とも厳しく問い合わせいかなくてはなりません。



領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは総領事館業務の「一丁目一番地」です。当地日本人コミュニティの皆様には、警備担当官から安全講習を随時実施しています。今後とも、皆様への治安情報の積極的な提供に努めたいと存じます。また、日本人コミュニティと当地コミュニティとの橋渡し、その中の日本企業支援なども積極的に、かつ、ご要望に添う形で実施して参りたいと存じます。

文化交流・報道・学術交流関係では、

1月3日、JAGAM（マレーシア元留日学生協会）北部支部主催によるSDGsワークショップと新年会に出席しました。このワークショップは、SDGsについてロール・プレイング形式で学ぶものであり、1チーム（3人）がNGO、ビジネス等に分かれて成果を競うカードゲームでした。設定に制約はあるものの、興味深いゲームでした。新年会では、当地で活発に活躍しているJAGAMの皆様と新春早々交流することができました。8日、豊橋技術科学大学のリム・パン・ボイ教授等の来訪を受けました。2月以降のTUTの活動などについて伺い、種々意見交換をすることができました。



12日、マレーシア日本協会（MJS）のチュー会長他と今後の日本文化紹介行事について意見交換しました。7月の盆踊りと11月または12月の「秋祭り」の他にも、他の団体が主催する文化事業に参加する由です。13日、大阪大学の住村教授及びハサン教授とオンラインで面談し、3月のハラル関係会議について打ち合わせを行ないました。同日、当地有力紙「The STAR」紙の新編集長・アーノルド・ローフ氏と面談しました。同紙は、各分野での全国ニュースに加え、ペナン等の地



長・アーノルド・ローフ氏と面談しました。同紙は、各分野での全国ニュースに加え、ペナン等の地



域面も充実した有力紙であり、我が国の政策広報や文化事業の宣伝を行なうためにも関係を今後とも維持・強化していきます。17日、AOTS同窓会からお招きを受け、年次総会の後の「新年会」に参加して、同窓会会員の皆様やAOTSインドネシア事務所の高橋所長とも意見交換をすることができました。高齢化が進むAOTS同窓会ですが、今後はメダンAOTS同窓会と交流を進めるという構想もあると伺っています。総領事館としても側面的に協力いたします。

同日、ペナン市内の寺院（Choo Chay Keong Temple）で開催されました2026年ペナン廟会（Miaohui）の点灯式にマレーシア日本協会（MJS）関係者と共に参加しました（午年のマスコットも発表されました）。ペナン廟会は、ジョージタウンの旧市街を舞台に旧正月期間中に開かれ

る大規模な華人文化祭で1999年開



始。毎年開催・屋外の宗祠・屋台・舞台を結ぶ参加型イベントです。ペナンの多文化的性格を反映して、2月21日の公式オープニングでは日本文化紹介も行なわれ、やはりMJS関係者が参加しますので、私も参加予定です。ペナン社会の「不可分の一部」である日本文化の存在感が出ればいいと思っています。

21日、「ペナン・ウォークアバウト」のロバート・ティー氏とピーター・ヨウ氏の訪問を受けました。「ペナン・ウォークアバウト」は、ジョージタウンの文化遺産をガイド付きで歩いて巡ることによって、ペナン自身を知り、また、共同体の再構築をしていくということを目的とする団体です。今回のご訪問では、6月にアヤル・イタムで挙行される文化行事への参加要請でした。他の大型文化行事と重なる可能性が高いのですが、日本関係団体には情報を共有することになっています。日本／日本文化を知らしめるために有効な機会はできるだけ活用していきたいと思っています。



22日、合気道無心館道場関係者及び日本文化紹介企業「HANABANA」関係



者の来訪を受けました。無心館は例年、各種大型日本文化行事において演武等を行なうことで盛り上げていただいています。「HANABANA」は、無心館の生徒が日本文化紹介のために立ち上げた小規模企業であり、今後の活動は未知数ですが、できる限りの連携をしていきたいと思います。

29日、ジョージタウン内の「ブルーマンション」

(「Cheong Fatt Tze Mansion : 張弼士邸」を訪問しました。オーナーのルー＝リム女史に案内していただきました。ルー＝リム女史からは8年掛けての改修についての苦労話などを伺いました。同女史は、ジョージタウンの世界遺産登録に尽力した「Penang Heritage Trust」の副会長でもあります。何かを成し遂げるには組織も重要ですが、熱意ある個人がいなくてはいけないことを示す典型例だと思います。



総領事館としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！

新年も、日本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

※以上の見解は、私個人のものです。